

財務レビュー

財政状態および経営成績の状況

世界情勢は、新型コロナウイルスによって大きく景気が後退した前年度から、回復の兆しが見えましたが、オミクロン株など新型コロナウイルスの再拡大、原油価格高騰などが主因となり、年度後半に回復ペースが鈍化しました。

日本経済は、年度前半のほとんどの期間で緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が発令されていたことを背景に低迷し、年度後半は成長と分配の好循環を目指す岸田政権の発足やワクチン接種率の向上により回復が期待されましたが、オミクロン株など新型コロナウイルスの再拡大や物価高による個人消費の伸び悩みもあり、足踏み状態となりました。

自動車業界は、年初時点は回復が期待されましたが、半導体不足や、新型コロナウイルスの再拡大による部品供給の停滞により、グローバル生産台数は伸び悩みました。また、樹脂材料不足の継続、物流網の混乱によりコストにも大きく影響を与えました。一方で、国内外の自動車メーカー各社より「EV」を主軸とする計画が発表され、トヨタ自動車株式会社も2030年にBEVのグローバル生産台数を350万台とする計画を発表されるなど、自動車市場が「EV」普及に本格的に始動した年となりました。

このような情勢の下、豊田合成グループは自動車生産台数の伸び悩み、材料市況、物流費の高騰等に伴い前年度比で増収となるも減益となりました。加えて、外部環境の変化による影響が大きく、自動車の生産量変動に柔軟に対応できないことによるコスト負担が大きくなっています。

このような厳しい状況ではありますが、足元の合理化や経費の抑制等を進めるとともに、中長期計画である「2025事業計画」の実現に向け「活動の3本柱」を軸とした成長戦略を遂行しています。

活動の柱Ⅰ「イノベーション・新モビリティへの挑戦」では、革新的な技術により従来と異なる新領域での早期事業化、クルマの様変わりに対応した新技術・製品開発を進めています。

新領域では、ウイルスや細菌の除去に有効な深紫外(UV-C)LEDを用いて空気を浄化・脱臭し、かつ手軽に持ち運びができる「UV-Cパーソナル空間除菌脱臭装置」、除菌スピードを向上させた「UV-C高速表面除菌装置」を販売開始し、製品ラインナップを拡充しました。

電気で動く次世代誘電ゴムe-Rubberでは、センサ機能を活かし、靴の中敷きに搭載することで運動時の足裏の圧力データを取得できるスマートインソール「FEELSOLE」を開発し、ミズノ株式会社が運営するゴルフスクールへのサンプル出荷を開始しました。また、省エネルギー社会の実現に寄与する新技術として窒化ガリウム(GaN)を用いた次世代パワー半導体の開発を進めており、世界最大級と

なる6インチを超える高品質なGaN基板(GaN種結晶)の作成(大口径化)に成功しました。社会全体でのカーボンニュートラル実現に向け、再生可能エネルギーや電動車の大きな電力を制御する際の電力ロスを低減できる次世代パワー半導体の実用化・普及拡大が期待されており、大口径化は課題であった生産性向上(コスト低減)に大きく寄与できるものと考えています。

自動車分野では、安心・安全なモビリティ社会の実現を目指し、新デバイスを市場投入しました。北米などで厳格化が見込まれる車両の衝突安全アセスメントに対応し、斜めからの衝突時に運転者の頭部・胸部を保護する「新構造運転席エアバッグ」は本田技研工業株式会社の新型「シビック」に、歩行者を保護する「歩行者保護エアバッグ」は株式会社SUBARUの新型「レガシィ アウトバック」に搭載されました。また、多様化するお客様のデザインニーズに対応し、BEVならではの先進的なデザインに貢献できる製品として発光機能を持たせた「LED発光エンブレム」が、日産自動車株式会社のクロスオーバーEV「アリア」に採用されました。

活動の柱Ⅱ「伸びる市場・伸ばせる分野へ重点戦略」では、重点事業であるセーフティシステム事業の拡大を図り、さらなる自動車の安全性能の向上を図るべく、芦森工業株式会社と資本業務提携しました。今後は両社協業により相互の事業資産とノウハウを活用し、開発力および製品競争力を強化し、エアバッグとシートベルトのシステム開発、電動車、自動運転等に対応する次世代安全システムの開発を進めていきます。

活動の柱Ⅲ「生産現場のモノづくり革新」では、「誰でも活き活き働ける工場」、CO₂や廃棄物を出さない「クリーンな工場」、災害ゼロやクレームゼロを目指す「誠実な工場」をTG先進工場コンセプトとして掲げ、当社の持続的な成長を支えるべく、スマートな工場化を目指しています。多種多様な自動車が生産される中、協働ロボット、生産工程を一元管理するIoTシステムなどの導入により生産性の向上を図るとともに従業員が安心・安全に働け、環境にも配慮したモノづくりに取り組んでおり、この取り組みは新工場を皮切りに、順次既存の工場にも適用拡大していきます。

当期の売上収益は、半導体不足等による顧客の対計画での減産はあったものの、前期の新型コロナウイルスによる減産からの回復やLED関連ビジネスの拡販等により、8,302億円(前期比15.1%増)と増収となりました。

利益については、増販効果はあったものの、原材料価格の高騰や自動車の生産量変動に柔軟に生産対応できなかつ

たコスト負担等により、営業利益は341億円(前期比6.3%減)、親会社の所有者に帰属する当期利益は233億円(前期比33.7%減)となりました。

(単位:百万円)

連結業績	2021年度	2020年度
売上収益	830,243	721,498
営業利益	34,172	36,479
親会社の所有者に帰属する当期利益	23,352	35,205

セグメント別売上収益

①日本

売上収益は、自動車の半導体不足等による顧客の減産はあったものの、LED関連ビジネスの拡販等により3,995億円(前期比11.6%増)となりました。

利益については、定年制度の変更に伴う一時的な退職給付費用の減少等により、セグメント利益は158億円(前期比31.2%増)となりました。

②米州

売上収益は、前期の新型コロナウイルスによる減産からの回復や為替影響等により2,407億円(前期比18.3%増)となりました。

利益については、増販効果はあったものの、原材料価格の高騰や自動車の生産量変動に柔軟に生産対応できなかったコスト負担、前期の政府補助金の反動等により、セグメント利益は41億円(前期比69.7%減)となりました。

③アジア

売上収益は、タイ、インド、インドネシア等の生産が回復したことにより、2,260億円(前期比18.7%増)となりました。

利益については、中国の減販影響やアジア全体で原材料価格の高騰はあったものの、その他の地域の増販効果等により、セグメント利益は152億円(前期比5.6%増)となりました。

④欧州・アフリカ

売上収益は、269億円(前期比2.8%増)となりました。

利益については、前期の英国子会社のリストラクチャリング引当金計上の反動等により、セグメント損失は9億円(前期損失39億円)となりました。

(単位:百万円)

セグメント別売上収益	2021年度	2020年度
日本	399,575	358,082
米州	240,730	203,421
アジア	226,037	190,479
欧州・アフリカ	26,992	26,261

※セグメント別売上収益には豊田合成グループ内部の取引額を含んでいるため、合計額は当社連結売上額と一致していません

財政の状況

財政状態に関する分析

①資産、負債および資本の状況

当期末における総資産は、主に営業債権及びその他の債権の増加に伴い、前期末に比べ841億円増加し、8,593億円となりました。また、負債は主に営業債務及びその他の債務の増加により、前期末に比べ418億円増加し、3,965億円となりました。

資本については、主にその他の資本の構成要素の増加により、前期末に比べ423億円増加し、4,627億円となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当期末における現金及び現金同等物は、前期末1,340億円に比べ248億円減少し、1,091億円となりました。

当期における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、以下のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは276億円の収入となり、前期に比べ395億円収入が減少しました。これは主に、営業債権及びその他の債権の増減額で225億円、引当金の増減額で61億円、それぞれ支出が増加したこと等によるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは594億円の支出となり、前期に比べ94億円支出が増加しました。これは主に、定期預金の預入による支出が40億円、有形固定資産及び無形資産の取得による支出が21億円、それぞれ支出が増加したことに加え、定期預金の払戻による収入が23億円減少したこと等によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは22億円の収入となり、前期に比べ152億円収入が増加しました。これは主に、長期借入金の返済による支出が164億円増加したことに加え、長期借入れによる収入が80億円減少したものの、短期借入収入と支出のネットが387億円の資金の流入となったこと等によるものです。

(単位:百万円)

キャッシュ・フロー	2021年度	2020年度
営業活動によるキャッシュ・フロー	27,658	67,247
投資活動によるキャッシュ・フロー	△59,427	△49,949
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,206	△13,065